

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人 天心会		
事業所名	グループホーム すこやか1		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1		
自己評価作成日	平成21年7月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○人生の大先輩として尊厳の気持ちを持ち、常にお伺いをたてる姿勢で接している。○職員全員が利用者様の生活歴について熟知しており、奥の深いコミュニケーションが図れる。○生活の中での炊事・裁縫・畑仕事等、得意とする分野で役割を担い、主人公になれる場を作り、生きる自信へと繋げている。○職員間の連携、チームワークがとても良く、より良いサービスへ繋げている。
○出来る所、出来ない所をしっかりと見極め、出来ない部分を黒子となり手伝い、生きる自信・自分らしさへ繋げている。○常にご家族と連絡を取り、希望や思いなどを伺い、サービスに反映させている。○地区のいきいきサロンへは月一回は出掛け、地域の方と顔馴染みになっている。また地域に出掛けたい時に出来る。○月一回の勉強会を行い、知識を深め専門性を高めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 医療福祉ゾーンの中にある事業所であるが、地域の中に積極的に出かけて行き、地域への訪問もあり、双方向で地域との交流を行っている。
2. 毎月、避難訓練を実施している。また、地元消防団が無いことから隣接事業所と有事の際の協力体制が構築されている。2階の利用者の避難に役立つようエアーストレッチャー等を取り入れている。
3. 日頃の会話の中で把握した利用者の思いを受け止めて、関係職員全体で思いの実現のために検討しながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①地域密着型サービス事業所独自の理念を検討しつくりあげた。②理念を共有し、それを基に月一回の勉強会、ケースカンファレンスと毎日のカンファレンスで話し合い実践している。(カンファレンス時は自由に発言できる雰囲気である)	利用者一人ひとりが、地域の中であたりまえに暮らし人間の尊厳を大切に生きていくことを基本理念として掲げ、日常の勉強会でケアサービスを振り返り、理念を確認し合いながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①立地条件が悪く、場所が分かりにくい、時折通る人に声を掛けたり笑顔で手を振ったりして努力をしている。(裏にサイクリングロードがある。②大きな看板を設置しわかりやすくした。③玄関周囲にラティスや花々を多くし、温かみを出し、入りやすい雰囲気作りをした。④地域の方々が一回見学に来られたが、それっきりになってしまった。	町内会に加入し、地域の情報を得ながら、地域のイベントに参加したり事業所近くの保育園とのふれあい、中学生の体験学習やボランティアの受け入れで地域と交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①利用者の生活支援が主体となっており、地域貢献は行っていない。 ②法人自体で、介護教室を年一回行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	報告、意見を基に少しずつサービス向上につながっている。	前年度の外部評価結果を受けて3ヶ月に1回の開催だった運営推進会議は開催形式を工夫しながら2ヶ月に1回の開催へと改善を図った。毎回、委員から積極的に意見が出されており、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	①グループホーム連絡会にて、市の担当者と共に質の向上について話し合っている。②日々のケアで困った事(特に新しく取り組んでいる看取りについて)、解決のできない時は、会津保健福祉事務所に相談して解決している。	市が開催する「グループホーム連絡会」の定期的な会合へ出席し、事業所の取り組み等報告しながら市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初から行なった事がない。する必要がなかった。	日中の玄関の鍵かけはしていない。 毎日のケア会議では、身体拘束をしないケアに向けて話し合いをし、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①職員全員で研修等、学ぶ機会を多くもち周知している。 ②絶対に起こらないよう虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①資料などで大まかに理解している。 ②必要性のある使用者がいなかったので活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧な説明を行い、利用者や家族の不安や疑問をひき出している。また、それに対して再度説明し理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①自由に意見、要望、苦情を言えるような関わりをしている。 ②何か行うときは相談したり、話し合いをして決定している。	家族も参加する事業所のイベント時に、家族から意見を聞いている。また、利用者一人ひとりのケアプラン作成の時期には、家族と日程を調整して来訪していただき、意見や要望等聞き取っている。聞き取った意見を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一、二階の合同の勉強会と、各階のカンファレンスを設け自由に意見を表せる機会を設け反映させている。	職員の目標管理制度を採用しており、自己目標期間終了時に職員の意見を個別に聞き取っている。また、勉強会やカンファレンスの際にも職員の意見等聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①皆で話し合い、一時間昼休みをとれるようになった。(以前は常に利用者と一緒に過ごしていた) ②目標評価がある。(年二回)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①法人全体で取り組んでいる。②良い研修があると受講している。③一ヶ月に一回、(一、二階合同)勉強会を行っている。④働きながらお互いの意見を交換したり、指導したり専門性と人間性を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市全体のグループホーム連絡会に参加し勉強会や意見交換会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、面談を数回実施して、顔馴染みになり、不安や要望を聴きやすい雰囲気作りをする。信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったら、数回面談を行い、聴きやすい雰囲気作りをし、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①入居申し込み時時間をかけじっくり話を聴き、必要としている支援を見極めている。 ②必要があれば他のサービスへもつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、尊敬している。また昔とった杵柄から生活の中で色々教えていただいている。職員は利用者のできないことをちょっとお手伝いして、助け合い、喜怒哀楽を共にし、より良い生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①家族間に差がある。本当の子供がおらず、甥や姪の場合は特に難しい。②個々の家族に合った関わり合いをしながら、少しずつ理解してもらい、支えていく関係を築いている。③ケアプランは御本人・御家族一緒に説明し、要望を聞く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふる里訪問、馴染みのラーメン屋や商店、床屋、知人の家、病院へ出掛けている。	利用者の希望に合わせて知人・友人宅を訪問したり、自宅近くの商店・床屋・ラーメン屋等に外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①利用者同士が共に助け合い支えあって暮らす事の大切さを十分に話し合い、関わりが円滑になるよう支援している。 ②どうしても、気の合わない方同士の時は、職員が間に入り仲をとりもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①退去後も相談や支援に応じている。 ②長期入院で退居になった方には、お見舞いに行ったり家族の付き合いも大切にしている。 ③看取りをして、御亡くなりになった後も御家族の悲しみが軽減出来るよう連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①本人、家族より直接希望を伺い、その人らしい暮らしを続けられるよう支援している。 ②日常の会話の中から、希望や願いを聞き取り叶えられるよう支援している。 ③ケアプランの説明時、再度希望を確認する。	介護計画の見直し時期に合わせて、利用者・家族の希望等聞き取る機会を設定している。また、日常の会話の中からも把握しており、利用者の思い等が実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーより時間をかけ、詳しく把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いきいきと、より良い人生を送っていただけるよう把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①本人、家族より希望や願い事をひき出し、作成している。②毎朝のカンファレンスと、月一回の勉強会で意見やアイデアを出し合い、作成している。③毎月、モニタリングを行い見直している。④変更や不足な点が生じた時はカンファレンスを行い、ケアプランを立て直している。それを本人、家族に説明し再確認を行っている。	毎月のモニタリング結果、利用者・家族の意向や身体状況に合わせて介護計画を見直しているが、長期目標及び短期目標(サービス内容を含め)は同じ内容が繰り返されている。	利用者・家族の意向等を基に、利用者の課題点と長期目標を掲げ、サービス内容を実施した後の利用者の姿をイメージした短期目標を掲げて欲しい。利用者の思いが実現できるよう支援している内容を介護計画に活かしていくことが必要である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①個別記録を毎日実施し情報を共有している。 ②ケアプランチェック表を作成し、実施しているか確認している。また見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ、取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①年に一、二回、蕎麦打ち等のボランティアを行っている。②避難訓練時、消防署より指導にきてもらっている。③学生や週一回掃除のボランティアの方に入ってもらっている。④行事の時もボランティアの方に手伝ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に診療を受けている。関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援していく。	入居時に利用者及び家族と話し合い、適切なかかりつけ医の受診を支援している。また、運営法人が協力医療機関となっており、24時間対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が配置されており24時間連絡体制が整っており、安心して対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時、状態にあわせ面会をして安心につなげている。 ②また、早期に退院ができるよう、病院側にはたらきかけ情報交換を密に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①重度化、看取りについての指針ができており、看取りの時期になった時、再度周知している。 ②本人の意向は家族より情報を得ている。 ③ターミナルや看取りについては、皆で話し合い気持ちを一つにして取り組む事ができた。その際、医療チームともよく話し合い、体制を整備した。	重度化・終末期における事業所の指針をそれぞれ作成し、入居時に利用者・家族に説明し同意を得ている。終末期に対応する場合、関係者が話し合いながら、チームで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習があり、知識習得や訓練を行なった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①昼夜を設定しての地震時、火災時の避難訓練を毎月一回実施している。 ②法人内の協力が得られるような連絡体制ができあがっている。 ③消防署からも参加してもらい、指導を受けている。	事業所周围は、医療機関と福祉施設のゾーンとなっており、隣接する法人の施設と相互に支援体制を組み、昼夜を想定した避難訓練を毎月実施している。また、自力移動が困難な人に対しては、エアストレッチャーを導入し訓練するなど、工夫して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①常に人生の大先輩として尊敬した言葉遣いや対応をしている。 ②自尊心が傷つかないよう、また、高めるようなはたらきかけをしている。 ③常にチームで話し合い、心がけている。	毎日の会議で、利用者に対する尊厳と細心の対応をするために、職員相互に言葉遣いや対応について検証し合い、話し合っている。新人職員へはプリセプター方式(新入職員と指導者がマンツーマン)、で指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①一人一人の思いや希望を自由に表出できるよう一対一でのコミュニケーションの時間を多くとっている。その際、聴き受容する事を大切にしている。 ②コミュニケーションからひき出された事をケアプランに取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望に添えるよう努力し各々のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①その人らしい身だしなみ、おしゃれができるよう支援している。 ②理、美容は本人の希望の所に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	①一人一人の力を把握し、炊事に参加していただいている。後片付け時は皆さんで楽しそうに行なっている。 ②食事中は会話をしながら楽しく頂いている。 ③一人一人の好き嫌いにも配慮して提供している。	法人栄養士の献立を基本にしながらも利用者の好み等を加味した献立となっている。事業所の畑で獲れた季節の野菜や差入を使い、利用者と一緒に調理等行い、会話しながら、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①口腔ケアの重要性を理解し、本人のできない部分を手助けしている。 ②毎食後行ない、入れ歯の方に対してはポリデント消毒を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用者はおらず、排泄パターンを活かし、さり気なくトイレ誘導している。	利用者一人ひとりの24時間の排泄パターンを把握し、尊厳を重視しながら自立支援に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に合った予防をしている。(バナナの摂取、水分、オリゴ糖、腹部マッサージ等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①入りたい時に回数や時間に関係なく、ゆっくり入っていただいている。 ②職員一人での入浴対応は安全性に欠けるため、寝る前の入浴は行なっていない。	利用者の希望に合わせて入浴支援をしており、1日2回入る人もいる。入浴の拒否者へは、声かけ等を工夫したり、お楽しみ入浴(ゆず・りんご等)を行いながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①一人一人の生活習慣を把握して、一人でゆっくり過ごす時間を大切にしている。 ②就寝時間もその人のペースに合わせ、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①受診ノート、処方薬ノートを参考に一人一人の服薬の支援をしている。 ②飲み忘れ、誤薬の予防策をたて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①生活歴から、一人一人の得意な事を基に役割をもって活躍していただいている。(炊事、裁縫、畑仕事等) ②外食、買物、散歩等希望されたら、すぐに出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、買物、散歩、ドライブ等行きたい所へ出掛けられるよう支援している。	年間を通じて初市見学、ふきのとう採り、花見・サツキ・ひめさゆり・ショウブ鑑賞、市の夏祭り、地区の村祭り、ぶどう狩り、文化祭見学等地域に出掛け、また、散歩やドライブ・買い物・外食等希望に沿って実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①その人の希望や力に応じて、お金を所持したり、いつでも自由に使えるよう支援している。 ②家族とも常に話し合い承諾している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の希望時はすぐに対応している。電話は個室で他の人に聞こえないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①季節の花を飾ったり、季節毎に小物を変えたりして季節感やあたたかみをだしている。 ②やわらかな照明を用いている。 ③静かな音楽や童謡を流し気持ちが安らぐよう配慮している。	季節の花や貼り絵を飾り付けるとともに、「彼岸の入り」等の張り紙でその時々季節の変化を知らせている。また、相性を見ながら席替え等をし居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①廊下に二箇所、玄関に長い椅子を置き、工夫している。 ②気の合った方同士、お互いの部屋でお茶飲みができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人	以前使用していた物、思い出の深い物等できる限りたくさん持ってきてもらう。(タンス、仏壇、時計、写真、アルバム等)	利用者は馴染みの家具や遺影・絵・テレビなどを持ち込み、安心して居心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①ADLの状態に合わせ手すり、滑り止めを設置したり、シルバーカーを使用したりして自立した生活を送っている。②部屋には本人が分かりやすいよう絵が描かれていたり、大きな字で名前を書かれたりしている。③日めくりがあり、その日の月日が一目で分かるようにしてある。		